

資料 Data

広島大学東広島キャンパスの石碑の属性と分布

佐藤大規¹・藤田 慧²・池田直樹³・岩佐佳哉⁴・大岩眞太郎⁵・沈 彧馨³・富田大智⁶
原田 歩³・藤岡柚衣³・藤村大智⁷・横川知司³・頼富収吾⁸・熊原康博⁹

Characteristics and distribution of stone monuments at the Higashi-Hiroshima Campus of Hiroshima University

SATO Taiki¹, FUJITA Kei², IKEDA Naoki³, IWASA Yoshiya⁴, OIWA Shintaro⁵
SHEN Yuqing³, TOMITA Daichi⁶, HARADA Ayumu³, FUJIOKA Yui³, FUJIMURA Daichi⁷
YOKOGAWA Satoshi³, YORITOMI Syugo⁸ and KUMAHARA Yasuhiro⁹

要旨: 本研究では、広島大学東広島キャンパスを対象として、悉皆調査によりすべての石碑の分布や属性、特徴を明らかにすることで、石碑が有する文化的・歴史的価値を議論する契機となることを目的とした。調査の結果、147基の石碑を確認し、その分布は教育学部と工学部でそれぞれ4割に達し、学部の偏りが顕著であること、建立年代に着目すると、東広島キャンパスの移転前の石碑は103基と全体の約7割で、多くが移転前に建立されたことなどが明らかとなった。広島大学は、医学系学部・研究科・施設をのぞくすべての学部などが東広島キャンパスに移転すると同時に石碑も集まることになった。移設により元々建立された地から離れたことで建立当初の意義を失った側面もあるが、多数の石碑が一つのキャンパスに移設されたことで散逸を防ぎ、前身校から新制広島大学、そして統合移転から現在までの歴史を繋ぐ貴重な資料となり得ることが示唆された。

キーワード: 石碑, 碑文, 広島大学, 東広島キャンパス

Keywords: stone monument, inscription, Hiroshima University, Higashi Hiroshima Campus

I. はじめに

日本の大学キャンパスには、顕著な業績を残した大学教員の顕彰や、学内組織の設立・統廃合の記念を企図したものなど数多くの石碑が存在する。石碑に限らず歴史的な建造物や銅像などを含め、これらを大学の歴史を物語る文化的・歴史的遺産とみなし、ホームページやパンフレット、キャンパス内を巡るツアーなどを通じて紹介する大学も少なくない。例えば、東北大学では同窓会「菝友会」がウェブ上で「大学構内記

念碑紹介¹⁾と題してキャンパス内の石碑を紹介している。また弘前大学「歴史探訪コース²⁾・関西大学「気になる彫像・石碑コース³⁾・熊本大学「大学歴史散歩⁴⁾」などのようにキャンパス散策のおすすめコースとしてウェブ上で紹介している。このように、ある程度包括的に石碑を紹介する大学もある一方で、文化的・歴史的価値が高いと思われる一部の石碑のみを紹介することが一般的である。これは意図的に抽出された大学史を紹介することにとどまり、石碑の文化的・

1 広島大学総合博物館：Hiroshima University Museum

2 岩宿博物館会計年度任用職員：Fiscal year appointment staff, Iwajuku Museum

3 広島大学大学院教育学研究科院生：Graduate student, Graduate School of Education, Hiroshima University

4 日本学術振興会特別研究員・広島大学大学院人間社会科学研究科院生：JSPS Research Fellowship for Young Scientists・Graduate student, Graduate School of Humanities and Social Sciences, Hiroshima University

5 広島県立高陽高等学校臨時的任用教職員・広島大学大学院教育学研究科院生：Hiroshima Prefectural Koyo Senior High School and Graduate student, Graduate School of Education, Hiroshima University

6 林野庁近畿中国森林管理局鳥取森林管理署：Kinki and Chugoku Regional Forest Office, Forestry Agency

7 香川県立香川丸亀養護学校常勤講師：Kagawa prefectural Kagawa marugame school for children with special needs

8 広島城北中高等学校非常勤講師：Hiroshima Johoku junior & senior high school

9 広島大学大学院人間社会科学研究科：Graduate School of Humanities and Social Sciences, Hiroshima University

歴史的価値の一部分だけを利用しているともいえる。ある大学に存在する石碑が、どの程度大学史を反映し、文化的・歴史的遺産としての価値があるのかを評価するためには、その大学におけるすべての石碑の位置や建立年、碑文などの基礎的な属性を明らかにし、その特徴を検討することが必要となろう。この特徴を明らかにすることは、一部の石碑だけを紹介する効果とは異なり、石碑の価値を包括的に示し、さらには、これまで知られていない大学の歴史にも目を向ける契機になると考えた。

これまで広島大学の石碑については、管見によれば壇上（1978）や小宮山（2000）など部分的に紹介したものしかない。本研究では、広島大学東広島キャンパスを対象として、悉皆調査によってすべての石碑の分布と属性、それらの特徴を明らかにした上で、石碑

が有する文化的・歴史的価値を議論する契機となることを目的とする。なお、本研究では石碑の属性や分布を把握し後世に残すため、記された文字情報を可能な限り記録しておくことが重要と考えた。そのため、本来的には石碑と見なされていないが、部局の銘板碑や銅像などの台座といった石に情報が刻まれたもの、さらに石に文字（情報）が記されたプレートを取り付けたものも石碑として取り扱った。

ところで、広島大学の特殊な事情として、東広島キャンパスへの統合移転が挙げられる。1970年代以前、広島大学は学部・研究科などが県内に点在する、いわゆる「蛸足キャンパス」の状態であった。1982（昭和57）年の工学部から1995（平成7）年の学校教育学部（現教育学部）・法学部・経済学部まで約10年かけて順次移転が行われた（ただし医学系の学部・

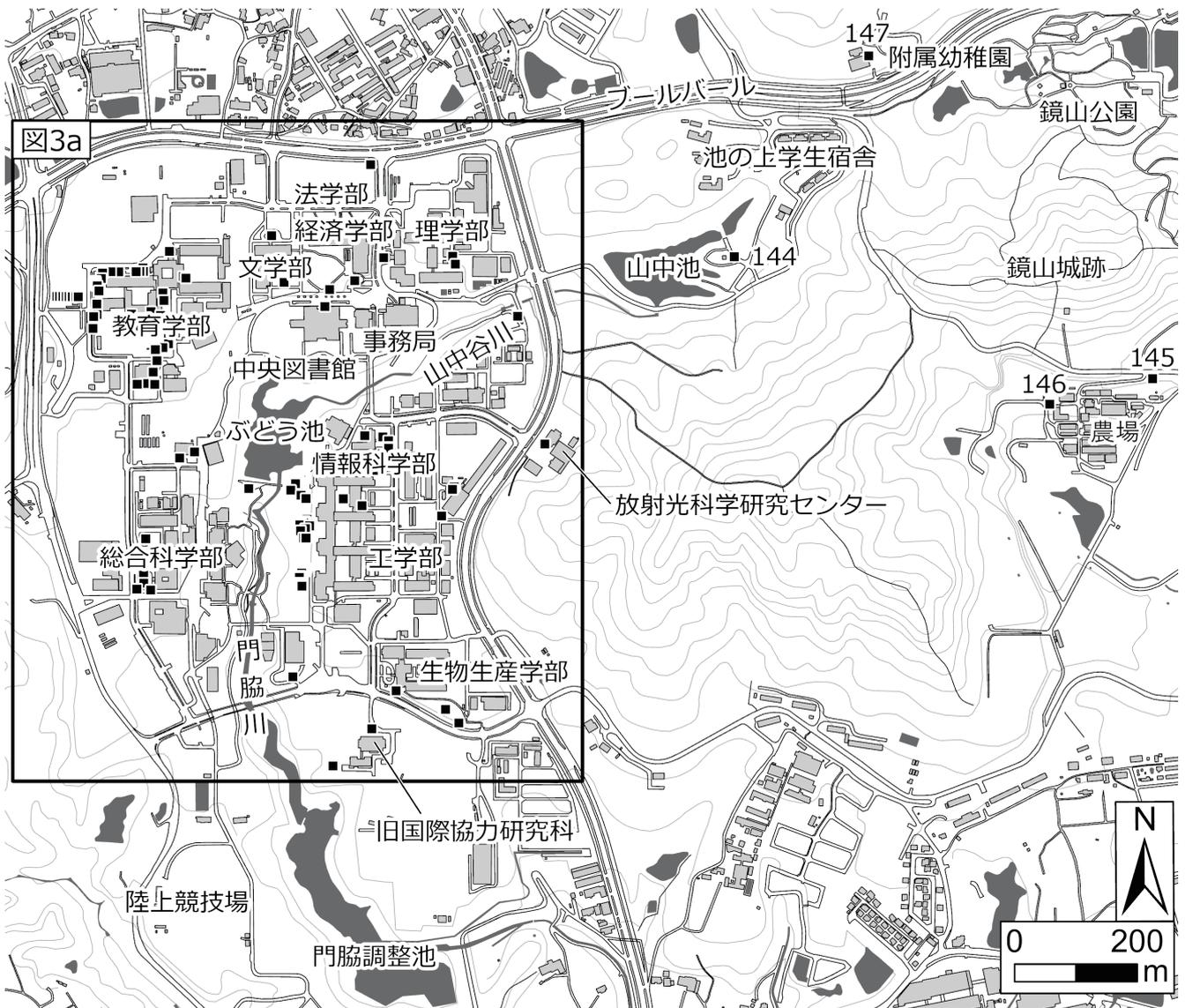


図1 広島大学東広島キャンパスにある各学部の配置と石碑の位置
 山中池周辺（144）及び農場（145、146）の石碑は番号を本図に入れた。基図は基盤地図情報サイトから作成した。

病院等は広島市内に残る)。その際、旧キャンパスにあった石碑すべてが東広島キャンパスに移設されたかどうかは今回検討していない。ただし東雲キャンパス内にあった石碑については、壇上(1978)が、碑の位置、碑文について詳細に記録しており、それによるとほとんどの石碑が東広島キャンパスに移設されたことが確認できる。

II. 調査方法

調査は、東広島キャンパス(図1)において2019年8月~2020年1月の期間に行い、補足的な調査を2020年7~8月に行った。調査の内容は、石碑の撮影や碑文の読み取り、設置位置のマッピングである。調査対象には、銘板碑や石に文字を記したプレートを嵌めたものや銅像などの台座も含めた。また碑文の判読が困難なものは、石造物に直接紙を当てて文字を写し取る拓本ではなく、内山ほか(2014)が行った SfM (Structure from Motion) -MVS (Multi-Video Stereo) 技術を応用した非接触による方法を用いた。これにより石碑の3次元モデルをつくることができ、文字の掘り込みを陰影により強調させることで、石碑を汚損

させることなく、刻文を明瞭に判読できた(図2)。この手法の有効性は、東広島市内の江戸時代の石造物の文字を扱った岩佐・熊原(2018)で示されている。

III. 広島大学の歴史

2020年8月現在、広島大学には12学部、4研究科及び多くの研究所・センターがある。新制広島大学が発足したのは1949(昭和24)年である。それ以前、広島には広島高等師範学校・広島文理科大学・広島師範学校・広島工業専門学校などがあり、新制広島大学はそれら前身諸学校を包括して新たな学部の母体とするとともに、新たに政経学部を加えて発足した。そのため教育学部や工学部などはそれら前身校の流れをくむ。以後、1964(昭和39)年に皆実分校から改称した教養部を1974(昭和49)年に総合科学部に、水畜産学部を1979(昭和54)年に生物生産学部に改組した。また教育学部東雲分校を1978(昭和53)年に学校教育学部へ改組し、2000(平成12)年に再び教育学部と統合した。さらに独立研究科として、1994(平成6)年に国際協力研究科(IDECC), 1998(平成10)年に先端物質科学研究科が設置された。近年では2018(平成30)年に情報科学部を設置、2019-20年に大学院の改組が行われ、4つの研究科となった。

新制広島大学は、発足当時から本部のある東千田キャンパス(教育学部・文学部・理学部、広島高等師範学校・広島文理科大学跡地)、千田キャンパス(工学部、広島工業専門学校跡地)や東雲キャンパス(学校教育学部、教育学部東雲分校、広島師範学校跡地)、福山キャンパス(生物生産学部、水畜産学部)など数カ所に渡ってキャンパスが分散していた。その後、1973(昭和48)年に東広島への統合移転が決定し、1982(昭和57)年の工学部を皮切りに移転が進められた。生物生産学部(1988年)・教育学部(1989年)・理学部(1991年)・総合科学部(1993年)・文学部(1994年)と進み、1995(平成7)年の学校教育学部・法学部・経済学部の移転をもって完了した。結果、東広島キャンパスは、約250ヘクタールもの全国的にみても最大級の面積を有するキャンパスとなった。以後、学生プラザやサタケメモリアルホールなどが建てられるなど、いくつかの建物が新築され現在に至る。

後述するように東広島キャンパスの石碑は、教育学部と工学部に関するものが大半を占める。ここでは、両学部の歴史を詳しく見ておく。

教育学部は、全国的に見ても極めて特殊な歴史を有する。それは、前身校として初等教員養成機関である

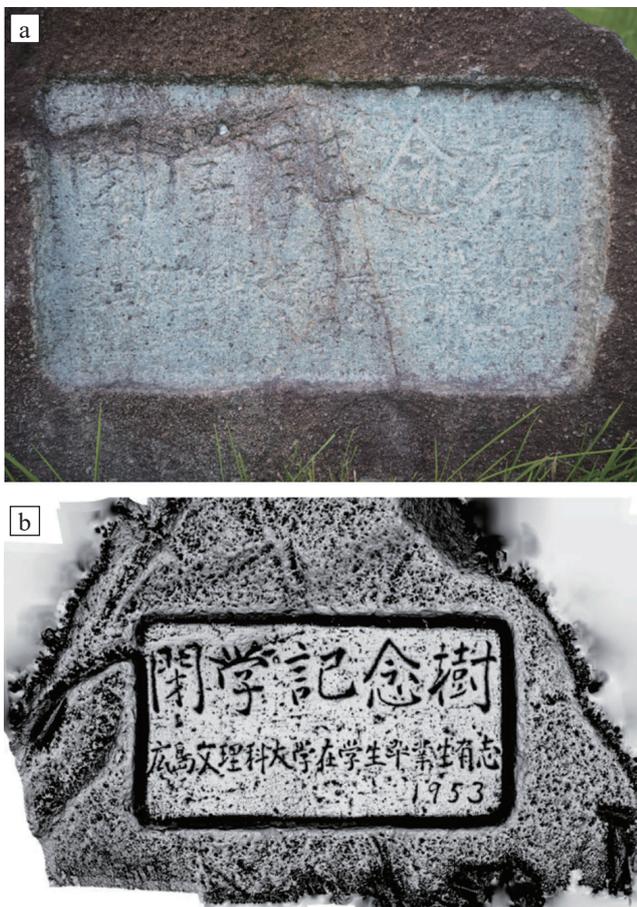


図2 石碑の写真(a)と3次元モデル(b)

広島師範学校、中等教員養成機関である広島高等師範学校・広島青年師範学校・広島女子高等師範学校、さらに大学である広島文理科大学があり、師範・青年師範・高等師範・女子高等師範・文理大の5種を包括した唯一の大学だからである。その内広島師範学校は1874（明治7）年の白鳥学校に始まり、その後数度の改組・改称を経て、1943（昭和18）年に同名称となった。新制広島大学発足時は、広島師範学校が教育学部東雲分校・三原分校、広島青年師範学校・広島女子高等師範学校が教育学部安浦分校となった。1962（昭和37）年に東雲分校と三原分校は統合、1978（昭和53）年に学校教育学部で改組された。安浦分校は1950（昭和25）年に福山分校と改称して分校福山教場に統合移転し、1990（平成元）年に教育学部に統合された。なお広島師範学校は開学当初、下中町に校舎があったが、1902（明治35）年に皆実町校舎に、さらに1941（昭和16）年に東雲町校舎に移転した。東雲校舎跡地は戦後、教育学部東雲分校、学校教育学部となる。一方、高等師範学校は、1902（明治35）年に東千田町（旧東千田キャンパス）に設けられた。その後、高等教育の普及に伴って1929（昭和4）年に広島文理科大学が設置され、広島高等師範学校はこれに附置され、戦後、教育学部創設の母体となった。教育学部は当初、出汐町（元陸軍被服支廠跡）に設置されたが1953（昭和28）年に東千田キャンパスに移転した。

工学部は広島工業専門学校と広島市立工業専門学校を前身校として設置された。広島工業専門学校は、1920（大正9）年に設置された広島高等工業学校が1944（昭和19）年に名称変更したもので、校舎は千田町にあった。設置当初は、機械工学科・電気工学科など七つの科が置かれた。1961（昭和36）年には、工業高校教員の需要の高まりから工業教員養成所が設置された。この養成所は、開所当初から8年間のみ存続するものと決められていた。工学部のキャンパスは、前身校である広島工業専門学校が所在していた千田町に置かれ、1982（昭和57）年に東広島キャンパスに移転した。現在は、第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）など四つの類に改組されている。

IV. 結果

(1) 石碑の全体的な傾向

調査によって、2020（令和2）年8月20日の時点において、合計147基の石碑を確認した。以下では、東広島キャンパス内における石碑の分布・種類・年代などの特徴について述べる。表1に石碑の一覧、図3

に石碑の分布を示し、巻末には石碑の写真を掲載した。

東広島キャンパスにおける現状の石碑の分布を学部・施設別に集計する。ここでの学部・施設とは、その石碑に最も近い学部・施設を指す。また、2019～2020年にかけて大学院の統合・改組が行われているため、学部ごとに集計した。今回確認した147基の内、教育学部54基、工学部56基、理学部5基、総合科学部5基、生物生産学部4基、文学部3基、国際協力研究科2基、農場2基、法学部・経済学部1基、その他13基であった。このように、教育学部と工学部でそれぞれ4割に達しており、現状では学部の偏りが顕著である。

次に147基の石碑を内容ごとに分別すると、卒業（修了）記念73基、銘板15基、顕彰（銅像の台座を含む）13基、周年記念7基、皇室5基、在職（在籍）記念5基、移転記念5基、説明4基、慰霊3基、交流記念3基、その他14基である。その他には開校記念・寄贈記念・竣工記念・設置記念・発足記念・閉学記念などがある。卒業（修了）記念碑が73基とおおよそ半数を占めた。部局等の銘板碑が15基、著名な教員等の顕彰碑が13基と続く。卒業（修了）記念碑が分布する部局別に見てみると、教育学部42基・工学部27基・生物生産学部4基であり、この3つの学部しかないだけでなく、教育学部と工学部が大部分を占める。なお、皇室関連の5基（4・20・24・115・116）は教育学部と工学部にあるが、建立年代が最も新しい24が1933（昭和8）年といずれも戦前に建立されている。

建立年代についてみる。147基のうち建立年代が判明するものは133基（内、21基は参考文献などに基づく推定）であった。このうち、最も古いのは39の1908（明治41）年であり、新しいのは89の2018（平成30）年である。なお、39は広島師範学校の卒業（修了）記念碑であり、89は2018年に設置された情報科学部の銘板碑である。

東広島キャンパスの移転前に建立されたものは103基と約7割であり、多くが移転前に建立され、移設されている。移転後に東広島キャンパスで新たに建立されたものは、部局の銘板碑や移転記念碑などが多数を占める。

新制広島大学発足までに前身校で建立された石碑は47基あり、現在の学部別に見てみると、教育学部28基・工学部18基・理学部1基である。教育学部は3基のみが広島高等師範学校、残りの25基が広島師範学校、工学部は18基すべてが広島工業専門学校、理

表1 東広島キャンパスの石碑一覧

番号	所属部局	建立年	種類	建立者	当初の建立場所	寸法(縦×横×厚)cm	碑文(前面)	碑文(背面)	碑文(その他)
1	教育学部	1989(平成元)年*	銘板	広島大学	東広島	82×164×32	教育学部		
2	教育学部	1995(平成7)年*	銘板	広島大学	東広島	81×184×55	学校教育学部 FACULTY OF SCHOOL EDUCATION		
3	教育学部	1958(昭和33)年*	卒業記念*	教育学部東雲分校*	東雲*	72×116×20	判読不能(真理の園*)		
4	教育学部	1915(大正4)年	皇室	広島師範学校	皆実→東雲	64×32×26	御大禮記念樹	大正四年十一月十日	
5	教育学部	1962(昭和37)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	50×87×39	真 昭和三十七年三月 卒業修了記念		
6	教育学部	1977(昭和52)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	43×82×25	記念樹 昭和52年3月卒業生 修了生		
7	教育学部	1975(昭和50)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	33×59×39	記念樹 昭和五十年三月卒業生修了生		
8	教育学部	1914(大正3)年*	卒業記念*	広島師範学校	皆実→東雲	39×35×12	九思		
9	教育学部	1910(明治43)年	顕彰	広島師範学校	皆実→東雲	242×122×34.5	吉村先生碑 ※碑文巻末?		
10	教育学部	1968(昭和43)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	21×64×37	卒業記念樹 昭和42年度卒業生		
11	教育学部	1976(昭和51)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	48×77×32	記念樹 昭和51年3月 卒業生 一同 修了生		
12	教育学部	1974(昭和49)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	32×69×26	記念樹 昭和四十九年三月 卒業生 修了生		
13	教育学部	1973(昭和48)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	26×54×31	記念樹 昭和48年3月 卒業生 修了生		
14	教育学部	1971(昭和46)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	44×74×18	記念樹 昭和46年3月 卒業生 修了生		
15	教育学部	1969(昭和44)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	21×46×13	記念樹 昭和44年3月修了生		
16	教育学部	不明	在職記念	広島高等師範学校	東千田	73×43×29	在職 記念 北条時敬		
17	教育学部	1937(昭和12)年 1957(昭和32)年再建	顕彰(台座)	広島高等師範学校	東千田	194×93×90	穆如清風	※碑文巻末	(左面)題字男爵平沼騏一郎
18	教育学部	不明	在職記念	広島高等師範学校	東千田	101×72×34	在職 記念 赤木萬二郎		
19	教育学部	1919(大正8)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	68×37×20	熱血	大正八年三月 第二部卒業 記念	
20	教育学部	1924(大正13)年	皇室	広島師範学校	皆実→東雲	76×22×15	御成婚記念	大正十三年一月	
21	教育学部	1933(昭和8)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	64×16×16	清淵會記念樹		(右面)第二十一回 本科第二部卒業生 (左面)昭和八年三月二十四日
22	教育学部	1934(昭和9)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	57×14.5×13	清泉會記念樹	昭和九年三月本科第一部卒業生	
23	教育学部	1934(昭和9)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	61×15×12.5	勳會記念樹	昭和九年三月本科第二部卒業生	
24	教育学部	1933(昭和8)年	皇室	広島師範学校	皆実→東雲	90×20×20	皇太子殿下御誕生記念樹		(右面)昭和八年十二月二十三日
25	教育学部	1938(昭和13)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	71.5×14.5×13	草笛會記念樹	昭和十三年三月卒業生	
26	教育学部	1956(昭和31)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	63×12×10.5	いちよう会	一九五六年三月	
27	教育学部	1955(昭和30)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	99×13×10.5	一九五五年卒 口芸同好会		
28	教育学部	1951(昭和26)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	44×84×42	環	1951年3月 修了生	
29	教育学部	1919(大正8)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	36×59×62.5	甲寅 大正八年三月卒業		
30	教育学部	不明	卒業記念*	教育学部東雲分校	東雲	51×116×43	霜葉紅於二月花		
31	教育学部	1917(大正6)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	59×41.5×10	大有 大正六年三月卒業		
32	教育学部	1959(昭和34)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	56×78×59	和	昭和三十四年三月 卒業修了生	
33	教育学部	1966(昭和41)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	45×80×47	不死鳥 昭和四十一年三月		
34	教育学部	1919(大正8)年*	卒業記念*	広島師範学校	皆実→東雲	24×41.5×38	大成		
35	教育学部	1937(昭和12)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	61.5×15×12	農勲會記念樹		(右面)昭和十二年三月二十四日 (左面)第二十五回 本科第二部卒業
36	教育学部	1939(昭和14)年	周年記念	広島師範学校	皆実→東雲	251×133×51.5	不動心	端艇部遠征記念 不動心は広島県師範学校の伝統的精神 である。この碑は明治末期の端艇部連 続全国制覇を不動心の発露として讃え 昭和九年秋創立六十周年記念に建立さ れた。昭和五十三年三月広島大学教育 学部東雲分校	
37	教育学部	1916(大正5)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	57×38×17	輝	大正五年三月 第二部五回 卒業記念	
38	教育学部	2006(平成18)年	周年記念	東雲同窓会	東広島	117×196×58	しのめ	(判読不能)	
39	教育学部	1908(明治41)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	40×79×38	管鮑 明治四十一年三月卒業		
40	教育学部	2006(平成18)年	周年記念	東雲同窓会	東広島	77×24×12	ソメイヨシノ 寄贈 中井三友	東雲同窓会百周年記念樹	
41	教育学部	1917(大正6)年*	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	56×41×7.5	蘭交	第六回二部 卒業記念	
42	教育学部	1957(昭和32)年*	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	37×84×68	Le Bois de Silence		
43	教育学部	1914(大正3)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	25×40×61	清美 大正三年三月廿五日卒		
44	教育学部	1955(昭和30)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	57×64×94	桜塔に鳩多き日々 卒業す	昭和二十九年 昭和三十年 三月修了	
45	教育学部	1917(大正6)年*	卒業記念*	広島師範学校	皆実→東雲	25×33.5×26	丁巳		
46	教育学部	1960(昭和35)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	69×89×40	朋		(左面)1960年3月卒業修了生
47	教育学部	1918(大正7)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	14×31×55	切徳 大正七年三月卒業		
48	教育学部	1956(昭和31)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	68×145×67	かく誘ふもの 何であらうとも 私たちの内の 誘はるる清らかさを 私は信ずる 昭和三十一年三月修了生		
49	教育学部	1967(昭和42)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	64×65×15	圓魂	昭和四十一年度卒業生	

番号	所属部局	建立年	種類	建立者	当初の建立場所	寸法(縦×横×厚)cm	碑文(前面)	碑文(背面)	碑文(その他)
50	教育学部	1913(大正2)年	卒業記念	広島師範学校	皆実*→東雲	37×46×14	大正二年 弘毅 三月卒業		
51	教育学部	1915(大正4)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	39×36×11	剛直	大正三年度 二部生	
52	教育学部	1917(大正6)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	25.5×37.5×65	菁莪	大正六年三月	
53	教育学部	1955(昭和30)年	卒業記念	教育学部東雲分校	東雲	92.5×14.5×12	青春	昭和三十年三月修了	
54	教育学部	1918(大正7)年	卒業記念	広島師範学校	皆実→東雲	43×35×24	成納	大正七年三月	
55	その他	不明	銘板	広島大学	東広島	112×180×64	広島大学		
56	文学部	1994(平成6)年	銘板	広島大学	東広島	120×170×44	文学部	平成6年3月	
57	文学部	1953(昭和28)年	その他	広島文理科大学	東千田	55×80×70	閉学記念樹 広島文理科大学在学生卒業生有志 1953		
58	文学部	1998(平成10)年	その他		東広島	20×30×10	アラカン 平成10年3月 寄贈 西川徳明氏		
59	法学部	1995(平成7)年*	銘板	広島大学	東広島	126×250×50	法学部 経済学部		
60	その他	1999(平成11)年	その他	広島大学	東広島	100×170×120	Satake Square	この碑は株式会社佐竹製作所の多大のご尽力により平成9年6月財団法人広島大学後援会が発足したことを記念しこの広場に「Satake Square」と名を記しその功績を永く継承するものである。 平成11年3月 広島大学長 原田康夫 揮毫 株式会社 佐竹製鉄所 代表 佐竹利子 氏	
61	その他	1995(平成7)年	その他	広島大学	東広島	29.5×26×17	クロガネモチ3本 平成7年2月 広島大学長 原田康夫		
62	図書館	不明	銘板	広島大学	東広島	45×182×45	広島大学附属図書館 中央図書館	陣崎克博	
63	その他	2005(平成17)年	交流記念	広島大学	東広島	33×38×11	사람신뢰인내 (仁 信 忍) 2005.10.31 韓國教員大學校		
64	その他	1996(平成8)年	交流記念	広島大学	東広島	56×117×41	希友和 望誼平		
65	その他	1999(平成11)年	交流記念	広島大学	東広島	36×60×5	ON THE OCCASION OF THE 50th ANNIVERSARY OF HIROSHIMA UNIVERSITY UNIVERSITY OF CALGARY ALBERTA, CANADA 1999		
66	その他	不明	銘板	広島大学	東広島	110×160.5×42	学士會館 Faculty Club	第9代学長 原田康夫書	
67	理学部	1991(平成3)年*	銘板	広島大学	東広島	計測不能	理学部		
68	理学部	不明	在職記念	理学部	東広島	45×75×50	Prof.E.Laitinen 在職記念		
69	理学部	不明	在籍記念	理学部	東広島	20×60×20	数宏 在籍記念		
70	理学部	2012(平成24)年	顕彰	理学部	東広島	79×45.5×30	※碑文巻末		
71	理学部	1937(昭和12)年 2012(平成24)年再建	顕彰(台座)	広島文理科大学 理学部(再建)	東千田	141×61×61	乾環先生像	正三位勲二等乾環先生明治四十四年廣島高等師範學校教授二任セラレ昭和四年廣島文理科大学ノ創立共ニ其ノ教授ニ轉シ植物學ヲ講セラル此ノ間教務課長トシテ大學創業ノ事ニ參シ又植物學教室ノ創設ニ先生ノ力ニ依リテ昭和十一年職ヲ辭セラルルヤ功ニ依リテ大學名譽教授ニ任セララル乃チ知友門生相謀リ茲ニ先生ノ像ヲ設ケテ夕其ノ温容ヲ仰キ長ク其ノ徳ヲ敬慕セントスルモノナリ 昭和十二年四月二十九日 平成二十四年十月再建	
72	その他	1996(平成8)年	移転記念	広島大学	東広島	39.5×45.8×10.2	移転記念植樹 広島大学 保健管理センター 重信早三 平成8年4月		
73	その他	2010(平成22)年	その他	広島大学	東広島	135×160×122	Komaru Square — 小丸スクエア — 財団法人渋谷育英会理事長小丸法之氏のご支援により学生プラザ及び周辺整備の充実を図り 一帯を Komaru Square と命名した 2010年4月 広島大学長浅原利正		
74	総合科学部	1997(平成9)年	顕彰	総合科学部	東広島	20.5×48.5×7.3	渡部三雄先生の樹 平成9年3月31日		
75	総合科学部	1994(平成6)年	その他	総合科学部	東広島	73×73.5×39.5	せかいにひとつ	寄贈 平成六年六月佳日 総合科学部教員クラブ	
76	総合科学部	1994(平成6)年	その他	総合科学部	東広島	69×63×35	ひろだいそうかは	寄贈 平成六年六月佳日 総合科学部同窓会	
77	総合科学部	2004(平成16)年	周年記念	総合科学部	東広島	105×15×12	広島大学総合科学部創立三十周年記念植樹	平成十六年六月五日 総合科学部同窓会寄贈	
78	総合科学部	2006(平成18)年	その他	総合科学部	東広島	114×15×12	広島大学大学院総合科学研究科設置記念植樹	平成十八年四月五日 総合科学部同窓会寄贈	
79	その他	1995(平成7)年*	その他	広島大学	東広島	61×96×49	賀茂学園都市開発整備事業竣工記念	※碑文巻末	
80	その他	不明	銘板	広島大学	東広島	91×151×39.5	広島大学 放射光科学研究所 Hiroshima Synchrotron Radiation Center Hiroshima University		
81	工学部	1987(昭和62)年	顕彰	工学部	東広島	35×43×14	波多野修次先生 御退官記念 1987年3月		
82	工学部	1984(昭和59)年	説明板(台座)	工学部	東広島	144×146×262	船用プロペラ 直径・・・4.82m 重量・・・10.7TON ピッチ比・・・0.692 展開面積比・・・0.525 材質・・・マンガンブロンズ 最大連続出力・・・8900PS×155RPM 1984年3月 寄贈 製神戸製鋼所		

番号	所属部局	建立年	種類	建立者	当初の建立場所	寸法(縦×横×厚)cm	碑文(前面)	碑文(背面)	碑文(その他)
83	工学部	1985(昭和60)年	説明板	工学部	東広島	56.5×49×19	船・港用ストックアンカー JISA形 0.395t 実重量 0.5t 1985年3月 寄贈 石川島播磨重工業株式会社		
84	工学部	1986(昭和61)年	説明板	工学部	東広島	48×44.5×11	船・港用ストックアンカー 1986年11月 寄贈 IHI 石川島播磨重工業株式会社		
85	工学部	1986(昭和61)年	顕彰	工学部	東広島	120.5×224×62	来見克 額實正弘 ※碑文巻末	作者 石黒孫七 施工 株式会社カキタ 1986	
86	工学部	1982(昭和57)年	その他	広島大学	東広島	97×16×15	広島大学開校記念植樹	白梅広島大学 松 東広島市 昭和五十七年五月二十二日 もみじ 広島県総目標 地域振興整備 公園	
87	工学部	不明	銘板	広島大学	東広島	67×137×36	工学研究科		
88	工学部	不明	銘板	広島大学	東広島	64×95×35	工学部		
89	工学部	2018(平成30)年	銘板	広島大学	東広島	65×137×35.5	情報科学部		
90	工学部	2015(平成27)年	その他	広大経工会	東広島	42×51×34	広大経工会記念碑 来しかた ゆく末 市工専・広大経工・経工・計数管理 1972年8月19日設立 2015年11月21日解散		
91	工学部	1982(昭和57)年	移転記念	広大経工会	東広島	90×71×22	工学部移転記念 昭和57年5月 広大経工会		
92	工学部	1958(昭和33)年	顕彰(台座)	工学部	千田	142.5×76×76	中江大部先生肖像	※碑文巻末	
93	工学部	1931(昭和6)年	顕彰(台座)	広島工業専門学校	千田	220×21×27	生先口川 像壽	設建月十年六和昭 校學業工等島高廣 同一生業卒並員職	
94	工学部	1986(昭和61)年	その他	工学部	東広島	32×43×12	贈 帆船海洋同窓会 昭和61年3月		
95	工学部	1988(昭和63)年	顕彰	工学部	東広島	147×130×150	心清開妙番 一九八八年 綱干 壽夫		(右面)昭和六十三年三月吉日建立 綱干壽夫教授退官記念事業会 設計・施工 若林造園
96	工学部	1933(昭和8)年*	卒業記念	広島工業専門学校	千田	54×90×40	電第十一回卒業記念		
97	工学部	1935(昭和10)年*	卒業記念	広島工業専門学校	千田	38×19×17	第十三回 電気科 卒業生		
98	工学部	1936(昭和11)年*	卒業記念	広島工業専門学校	千田	45×58×24	電第十四回卒業記念		
99	工学部	1957(昭和32)年	卒業記念	工学部	千田	57×14×11.5	新大 第三回卒業記念 電気科	昭和三十二年三月	
100	工学部	1962(昭和37)年	卒業記念	工学部	千田	44×15×15	新大電気科第十回 卒業記念	昭和三十七年三月	
101	工学部	1940(昭和15)年	卒業記念	広島工業専門学校	千田	40×19×15	第十八回 卒業生 電気科 紀元二千六百年		
102	工学部	1944(昭和19)年	卒業記念	広島工業専門学校	千田	52×17×17	電気科 卒業記念 二十二回		
103	工学部	1968(昭和43)年	卒業記念	工学部	千田	52×17×11.5	電気工学科 卒業記念	昭和四十三年 昭和四十二年 昭和四十一年 昭和四十年 昭和三十九年 昭和三十八年	
104	工学部	1961(昭和36)年*	卒業記念	工学部	千田	40.5×18×15	新大電気工学科第九回 卒業記念		
105	工学部	1955(昭和30)年	卒業記念	工学部	千田	20.5×40×14.5	新大電気科第三回 卒業記念	昭和三十年三月	
106	工学部	1934(昭和9)年*	卒業記念	広島工業専門学校	千田	45.5×17×19	第十二回 電気科卒業生		
107	工学部	1956(昭和31)年	卒業記念	工学部	千田	33.5×13.5×11.5	新大第四回 電気科卒業生	昭和三十一年三月	
108	工学部	1941(昭和16)年	卒業記念	広島工業専門学校	千田	90×16×11.5	電気科第十九回卒業生		
109	工学部	1939(昭和14)年	卒業記念	広島工業専門学校	千田	47×45×11	電気科第十七回 卒業記念 昭和十四年三月		
110	工学部	1967(昭和42)年	卒業記念	工学部	千田	31×38×8	記念樹 昭和42年3月卒業 船舶工学科一同		
111	工学部	1973(昭和48)年	顕彰	工学部	千田	29×58×9	濱本博登先生 御退官記念 昭和48年3月		
112	工学部	1982(昭和57)年	移転記念	工学部	東広島	40×61.5×13	移転記念 昭和五十七年四月 土木四十五年度生一同		
113	工学部	1995(平成7)年	顕彰	工学部	東広島	56×110×45	贈 広島大学土木学会 六代会長 矢野 弘 を偲んで	平成七年十一月	
114	工学部	1920(大正9)年	卒業記念	広島工業専門学校	千田	45×125×48	職員卒業生 記念 大正十年 三月		
115	工学部	1928(昭和3)年	皇室	広島工業専門学校	千田	58×15×15	御大典記念樹	昭和三年十一月 職員学生一同	
116	工学部	1926(大正15)年	皇室	広島工業専門学校	千田	60.5×12×12	大正十五年五月 摂政宮殿下御播種之松		
117	工学部	1965(昭和40)年	在職記念	工学部	千田	49×80×51	如水下座 流動不止 在職42年記念 山本 博	1965	

番号	所属部局	建立年	種類	建立者	当初の建立場所	寸法(縦×横×厚)cm	碑文(前面)	碑文(背面)	碑文(その他)
118	工学部	2002(平成14)年	説明板	工学部	東広島	13×41×30	2002年8月6日 この作品は「フェニックスの業」を表現したものです。これは、エジプト神話に出てくる霊鳥フェニックスが、500年生きるとその業に火をつけ、自分の身を焼き灰の中から新たな生命をもって蘇るといわれる不死鳥になぞられ、原子爆弾で壊滅となった広島市に新たに生まれた本学を象徴しています。使用されている煉瓦は、霞キャンパスの医学部校舎として使用されていた煉瓦造りの建物(1945年8月6日に原子爆弾により破壊)を解体し、記念として保存されていたもので、平和な社会を築くという広島大学の願いをこめ工学部学生によって製作されたものです。		
119	工学部	1998(平成10)年	慰霊	工学部	東広島	95×143×29	広島大学工学部慰霊碑 広島大学工学部ならびに前身 諸学校の教職員と卒業生の 死没者をここに合祀する	慰霊碑 設計者 広島大学名誉教授 佐藤重夫 先生 創 設 昭和46年(1971年)工学部 創立50周年記念事業として 広島市千円町 旧母校構内に 建立 移 設 昭和57年(1982年)工学部の 西条移転に伴い、当地に移設 標識碑 松前 實(教養昭和19年卒業)書 平成10年5月(1998年)建之	
120	工学部	1971(昭和46)年	慰霊	工学部	千田	計測不能		広島大学工学部五十周年にあたり慰霊 の碑を建て哀福を祈る 昭和四十六年五月二十三日	
121	工学部	1963(昭和38)年	顕彰	工学部	千田	75.5×15×15	森戸辰男先生記念樹	昭和三十八年三月三十一日	
122	工学部	1982(昭和57)年	移転記念	工学部	東広島	76×105×20	広島大学工学部 移転記念 植樹	昭和57年11月吉日	
123	工学部	1938(昭和13)年*	卒業記念	広島工業専門学校	千田	37×45×12	精密工学科 第2回卒業記念		
124	工学部	1939(昭和14)年	卒業記念	広島工業専門学校	千田	45×41×7	機械科十七回 卒業記念 昭和十四年		
125	工学部	不明	卒業記念	不明	千田	31×60×15	第四回 卒業記念		
126	工学部	1971(昭和46)年	周年記念	工学部	千田	34×40×6	十周年記念樹 精密工学科 昭和46年11月6日		
127	工学部	1937(昭和12)年*	卒業記念	広島工業専門学校	千田	18×31×17.5	精密工学科 第1回卒業記念		
128	工学部	1966(昭和41)年	卒業記念	工学部	千田	77×15.5×15.5	卒業記念樹		(右面)広島工業教員養成所三十八年 度 (左面)昭和四十一年三月廿五日
129	工学部	1933(昭和8)年	その他	広島工業専門学校	千田	83×140×56	記念植樹 貳百拾六本 昭和八年 元教授 藤野準		
130	工学部	1941(昭和16)年	卒業記念	広島工業専門学校	千田	72×46×12	昭和十六年三月 修了記念 機械技術員養成科		
131	工学部	1937(昭和12)年*	卒業記念	広島工業専門学校	千田	55×160×60	機械工学科第十五回 卒業記念		
132	工学部	1967(昭和42)年	卒業記念	工学部	千田	27×38×15.5	記念樹 4回卒業		(右面)広島工業教員養成所 (左面)昭和42年度生
133	工学部	1969(昭和44)年*	卒業記念	工学部	千田	52×55×20	卒業記念樹 第6回卒業生 広島大学工業教員養成所		
134	工学部	1968(昭和43)年	卒業記念	工学部	千田	60×64×25	卒業記念樹 第5回卒業生 広島大学工業教員養成所 昭和43年3月25日		
135	工学部	1965(昭和40)年	卒業記念	工学部	千田	52×11×11	卒業記念樹	昭和四十年三月二十五日	(右面)広島大学工業教員養成所 三十七年度生
136	工学部	1969(昭和44)年	その他	工学部	千田	35×64×63	記念碑 広島大学工業教員養成所 昭和44年3月26日 教職員卒業生有志建立	【上面】 昭和36年5月19日開所 昭和44年3月31日閉所	
137	その他	2004(平成16)年	周年記念	医学部	東広島	17×30×17	広島大学医学部内科学第一講座 開講50周年記念植樹		
138	IDEC	1994(平成6)年*	銘板	広島大学	東広島	124×244×128	国際協力研究科 IDEC		
139	IDEC	1993(平成5)年	周年記念	広島大学	東広島	199×91×71	春響小径 原田康夫		(左面)広島大学体育会創立30周年記 念 感激と喜びを求めて30年。 フェニックスの町からサクラ の里へ。 この桜花の下に集い、未来を 拓こう！ 平成5年11月2日 広島大学体 育会同窓会
140	生物生産学部	2004(平成16)年	卒業記念	生物生産学部	東広島	79×10×7	平成十六年 卒業記念樹 花木		
141	生物生産学部	1959(昭和34)年	卒業記念	水畜産学部	福山	53×17×15.5	記念樹第十回		(右面)広島大学水畜産学部
142	生物生産学部	1966(昭和41)年	卒業記念	水畜産学部	福山	54×17×12	第十七回卒業記念樹		
143	生物生産学部	2007(平成19)年	卒業記念	生物生産学部	東広島	80×10×7	平成十八年度卒業生寄贈品		
144	その他	不明	銘板	広島大学	東広島	64×138×32	Harada Park		
145	農場	不明	銘板	広島大学	東広島	71×100×43	広島大学大学院生物園科学研究所附属 瀬戸内園科学教育研究センター 西条ステーション(農場)		
146	農場	1966(昭和41)年	慰霊	水畜産学部	福山	70×75×60	番魂碑 1966.3		
147	附属幼稚園	1990(平成2)年	移転記念(台座)	附属幼稚園	東広島	25×35×45	ゆうゆう 広島大学附属幼稚園移転記念 制作者 川口政宏 (山口大学教授) 1990年4月		

1: *は参考文献等により補った情報である
2: 長文となる碑文は巻末に別途掲載した
3: 不定形なものや土中に埋まったものもあるため、おおまかな数値である



図 3a 東広島キャンパスの中心部にある石碑の位置
 基図は基盤地図情報サイトから作成した。

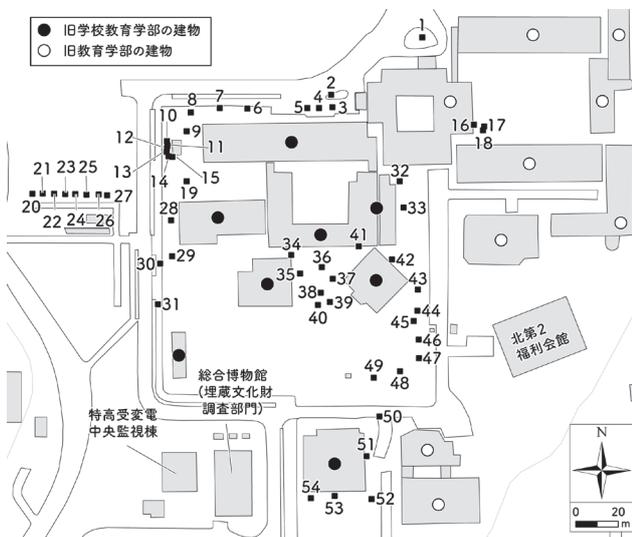


図 3b 教育学部にある石碑の位置
 基図は基盤地図情報サイトから作成した。

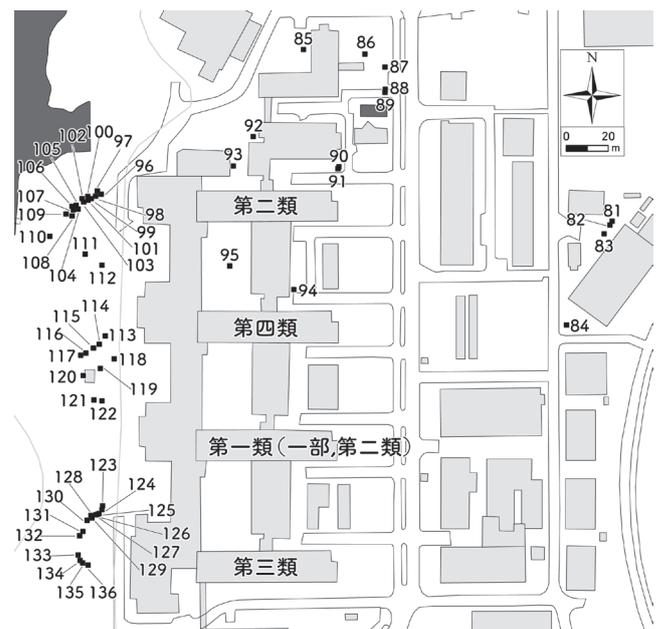


図 3c 工学部にある石碑の位置
 基図は基盤地図情報サイトから作成した。

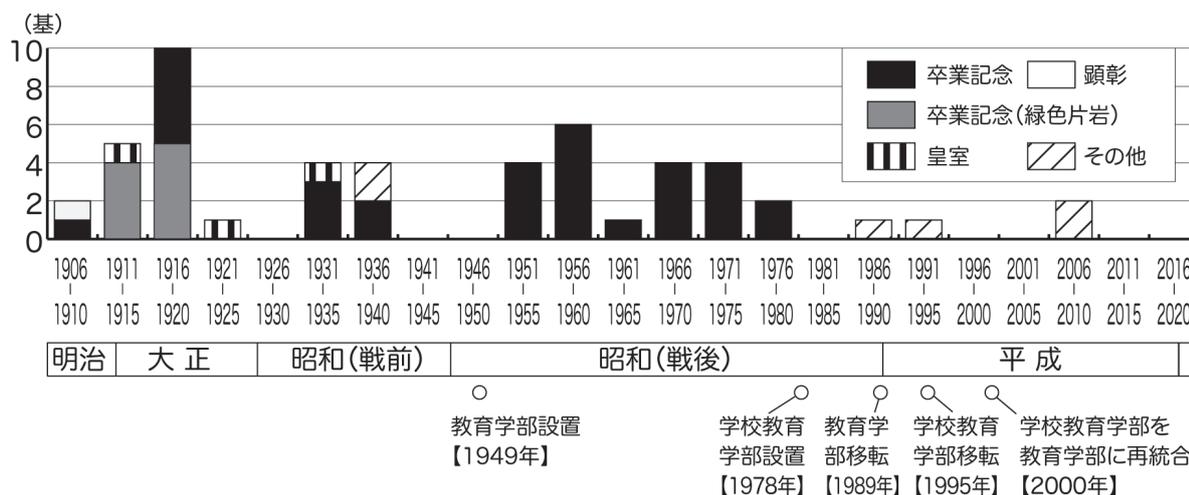


図4 教育学部にある石碑の建立時期と主な建立目的
筆者作成

学部は広島文理科大学の石碑である。ここでは、長い歴史を持つ広島高等師範学校と広島文理科大学の石碑がわずか4基しかないことが注目されよう。この4基は、教育学部や理学部が東広島キャンパスへの移転に伴い両校が所在していた旧東千田キャンパスより移設されたと考えられるが、両校においてこの4基以外に石碑が建立されていたかについては詳らかでない。

現状における東広島キャンパスの石碑の全体的な傾向をみると、教育学部と工学部で突出して数が多いことがわかる。これは、両学部の前身校である広島師範学校・広島工業専門学校、さらに新制広島大学発足後はそれを引き継ぐかのように教育学部東雲分校・工学部で石碑が建立されたからと考えられる。以下では教育学部と工学部に着目してその特徴を記載する。

(2) 教育学部の石碑の特徴

教育学部にある石碑の建立時期と主な建立目的の経年変化をみると、1921年～1930年、1941～1950年では、1924(大正13)年に皇室関係の石碑が建立される以外、石碑は建立されていない(図4)。前者は第一次世界大戦後の不況期、後者は第二次世界大戦後の混乱期にあっており、当時の世相を反映している可能性がある。1951(昭和26)年から1977(昭和52)年にかけて再び卒業記念の石碑が建立されるが、これはいずれも教育学部東雲分校時代のものである。学校教育学部が改組された1978年以降に卒業記念の石碑は全く建立されていないが、その理由は定かでない。なお、本研究では石の材質については未調査であるが、不定形の緑色片岩を用いた10基(8・29・31・37・41・43・47・50・51)の石碑が見られ、かつそ

の建立年代が1913(大正2)年から1919(大正8)年と大正時代の一時期に集中していたので、特記しておく。

教育学部内の詳細な石碑の位置について記しておく。1995(平成7)年に学校教育学部が東広島キャンパスに移転してから2000年までの5年間は、両学部の建物が隣接していた。現在の教育学部の建物は管理棟やAからL棟の研究棟・講義棟で構成されている。中心付近に位置する管理棟を境にして東側に旧教育学部、西側に旧学校教育学部の建物が位置している。今回確認した教育学部の石碑は54基あるが、その内広島高等師範学校で建立された16・17・18の3基、そして教育学部と学校教育学部のそれぞれ銘板碑2基を除く49基が旧学校教育学部建物の周囲や広場などに設置されている。この内、東広島キャンパスで新たに建立された38・40の2基を除き、47基が東雲キャンパスから移設されたものである。

壇上(1978)によれば、旧学校教育学部があった東雲キャンパスには53基の石碑があった。教育学部内の石碑と比較すると、53基の内47基の石碑と一致する。なお、3は碑文の判読は困難であるが、学校教育学部が作成した「学校教育学部構内記念碑一覧」(1996年9月)によれば、1958(昭和33)年に建立された「真理の園」と刻まれた卒業記念碑と考えられる。残り6基の所在は不明である。なお、47基の内、36や43など少なくとも15基は皆実町校舎で建立されたものである(数田編, 1935)。したがってその15基は1941(昭和16)年の東雲町校舎移転に伴い移設されており、東広島キャンパスへの移設を含めると2度移設されたことになる。

なお、石碑の並びなどについては、東雲キャンパス

時を踏襲しておらず、20～27のように石碑の形状が類似するものを集めるなど移設に当たって検討がなされ再配置したと考えられる。なお、9・36・39の3基については、教育学部保管文書（平成6年8月9日付広大会第629-2）によれば、学校教育学部より広島大学統合移転実施計画委員会宛に移設場所を含めた移設許可申請がされており（平成6年8月26日付広大1の239-3において許可）、学校教育学部において移設場所の検討がされたことが窺える。その他、38・40は東広島キャンパス移転後の2006年に建立されたものであるが、ともに東雲同窓会によるもので、学校教育学部に関係する石碑である。

16・17・18の3基は、広島高等師範学校の初代校長である北条時敬や、著名な教育者であった赤木萬二郎に関する石碑である。旧教育学部に関係の深いもので、東千田キャンパスから旧教育学部の移転に伴い、その中庭に設置されたと考えられる。また、16・18は、全体的に赤みがかり、ひび割れや剥離痕が確認される。これは長時間高熱を受けた石に見られる特徴である。この2基は広島高等師範学校に関するものである。同校は、爆心地から約1.5kmにあり原子爆弾によって木造校舎がすべて焼失するなど甚大な被害を受けたとされ、その際の痕跡と考えられる。

(3) 工学部の石碑の特徴

工学部にある石碑の建立時期と主な建立目的の経年変化をみると、1936～1945年を中心に戦前は広島工業専門学校において卒業記念の石碑が建立されているが、1946～1950年の第二次世界大戦終了直後の数年間には石碑が建立されていない（図5）。一方1955（昭和30）年から新制広島大学の工学部において再び石碑は建立される。その中で、工業教員養成所に関する石碑は工学部に6基確認された。同所は1961（昭和36）年に開所され1969（昭和44）年に閉所した。

同所が存在した8年間のうち、第1回を除くすべての年度で卒業記念碑が建立されて、閉所年となる1969年には、職員・卒業生による記念碑も建立されている。なお、これ以降工学部では卒業記念の石碑は現在まで建立されていない。

工学部周辺の石碑の分布の特徴を検討する（図3c）。工学部の建物は北側に管理棟があり、南に向かって研究棟が並ぶ。西側に研究棟を繋ぐように講義棟がある。工学部では56基の石碑が確認されたが、大部分の41基が建物（講義棟）の西側に分布する。その内38基は、建立年からすれば工学部千田キャンパスより移設されたものと考えられる。また38基の内27基が卒業（修了）記念碑で、前身校である広島工業専門学校のもの15基、戦後の工学部のもので12基である。これらの石碑は、おおまかに北から17基、10基、14基の3つのグループに分かれて設置されている。このうち、最も北側の17基はさらに細かく見ると広島工業専門学校の電気科、そしてその流れをくむ工学部電気科の卒業（修了）記念碑が14基密集して分布する。残りの3基はそのやや南側にあり、110が船舶工学科の卒業記念碑、111が造船学者で船舶工学科の教授を務めた濱本博登の退官記念碑と船舶工学科に関するものと土木科卒業生による移転記念碑（112）である。中央の10基は120の慰霊碑を中心とし115の御大典記念（皇室）、121の顕彰碑（森戸辰男初代学長）のように慰霊碑や顕彰碑、皇室関係といった学部内の講座とは関係の薄いものが集約されている。また最も南側の14基は、精密工学科や機械科・工学部工業教員養成所に関する石碑である。最も北側の14基は第二類に、その南側の3基は第四類に、最も南側の14基は第一類と関連したもので、それぞれの類が位置する建物の近くに移設されたようである。

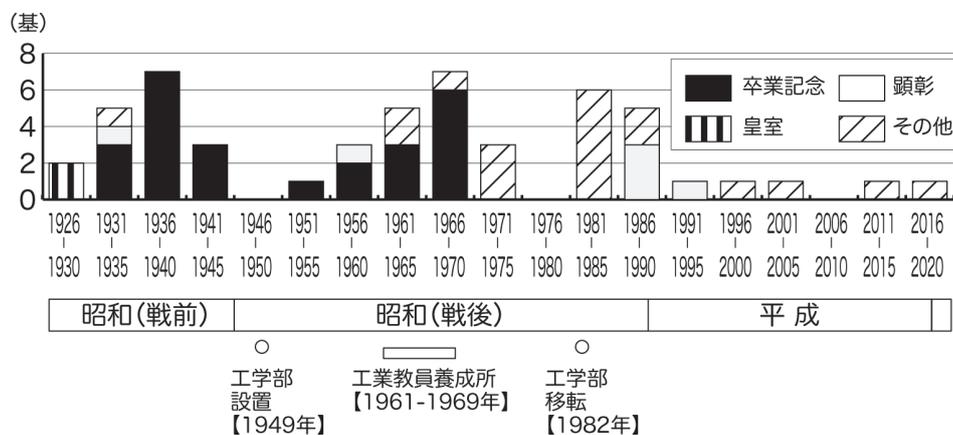


図5 工学部にある石碑の建立時期と主な建立目的
筆者作成

その他、85・92・93の3基は比較的人通りの多い場所に置かれている。85は頼實正弘(第6代大学長)、92は中江大部(初代工学部長)、93は川口虎雄(広島高等工業学校初代校長)と工学部や広島大学の発展に顕著な貢献した人物の顕彰碑であり、設置場所からして、工学部として顕彰している印象を与える。また86・91の移転完了記念碑は玄関付近に置かれている。

V. まとめ

本研究では以下のことが明らかとなった。

- (1) 悉皆調査の結果、147基の石碑を確認した。その分布を学部・施設別に集計すると147基の内、教育学部が54基、工学部が56基で、教育学部と工学部でそれぞれ4割に達しており、現状では石碑の学部偏在性が顕著である。
- (2) 147基の石碑を内容ごとに分別すると、卒業(修了)記念碑が73基とおおよそ半数であり、部局等の銘板碑が15基、著名な教員等の顕彰碑が13基と続く。
- (3) 東広島キャンパスの移転前に建立された石碑は103基と約7割となっており、多くが移転前に建立されていた。移転後に東広島キャンパスで新たに建立されたものは、部局の銘板碑や移転記念碑などである。
- (4) 教育学部の石碑は54基確認されたが、そのうち47基は広島師範学校・教育学部東雲分校において建立されたもので、東雲キャンパスからの移転に際して旧学校教育学部の建物を囲うように移設されていた。
- (5) 工学部の石碑は56基確認されたが、そのうち38基は千田キャンパスより移設されたものと考えられた。27基が卒業(修了)記念碑で、前身校である広島工業専門学校のもものが15基、戦後の工学部のもものが12基であった。
- (6) 戦前における皇室に関連する石碑の存在や、第一次世界大戦後の不況期や第二次世界大戦中や終戦後の混乱期には石碑の建立が減少しており、当時の世相を反映している可能性がある。

広島大学は東広島への統合移転がなされる以前において、県内に複数のキャンパスを有する「蛸足キャンパス」であった。そのため、統合移転によって医学系学部・研究科・施設をのぞくすべての学部が東広島に集結すると同時に石碑も東広島キャンパス一箇所に集まることになった。移設により元々建立された地から離れたことで建立当初の意義を失った側面もある。しかし多数の石碑が一つのキャンパスに移設されたこと

が散逸を防ぎ、前身校から新制広島大学、そして東広島キャンパスへの統合移転から現在までの歴史を繋ぐ貴重な資料となり得ることが示唆された。本研究では、東広島キャンパスにおける石碑の属性と分布を悉皆調査により記録した。今後、この結果を用いてこれまで知られていない広島大学の歴史を発掘する契機となることが期待される。

【謝辞】

石碑や資料の調査に際して、農場・附属幼稚園・教育学部の担当者に便宜を図っていただきました。また碑文の判読には、弘胤 佑氏(広島城北中・高等学校)に協力いただきました。また匿名の査読者および編集委員会の適切なコメントによって本稿は大きく改善しました。記して感謝いたします。

【註】

- 1) 東北大学 萩友会大学構内記念碑紹介
<https://www.bureau.tohoku.ac.jp/alumni/monument.html>
(2020年8月20日閲覧)
- 2) 弘前大学 歴史探訪コース
<https://www.hirosaki-u.ac.jp/campus/course/monument.html>
(2020年8月20日閲覧)
- 3) 関西大学 気になる彫像・石碑コース
http://www.kansai-u.ac.jp/nenshi/campus_map/course/course02/ (2020年8月20日閲覧)
- 4) 熊本大学 大学歴史散歩
<https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/rekishimap> (2020年8月20日閲覧)

参考文献

- 岩佐佳哉・熊原康博：広島県西条盆地南部、柏原・三升原地区の神社境内の石造物の同一性と其の成立経緯。広島大学総合博物館研究報告, 10, 103-110.
- 内山庄一郎・井上 公・鈴木比奈子(2014)：SfM モデルを用いた三次元モデルの生成と災害調査への活用可能性に関する研究。防災科学技術研究所研究報告, 81, 37-60.
- 數田猛雄編(1935)：『六十年回顧録』広島縣師範學校。
- 小宮山道夫(2000)：大学史の散歩道。広大フォーラム, No361,
- 壇上正孝(1978)：学校教育学部構内の記念碑類一覧。学内通信, 171, 6-9.
- 広島大学工学部75周年記念誌小委員会(1995)：『広島大学工学部75周年記念誌』広島大学工学部75周年記念事業実行委員会。
- 広島大学50年史編集専門委員会・広島大学50年史編集室

- (1999)：『広島大学の50年』広島大学。
- 広島大学50年史編集委員会・広島大学文書館(2007a)：『広島大学五十年史 資料編上・下』広島大学。
- 広島大学50年史編集委員会・広島大学文書館(2007b)：『広島大学五十年史 通史編』広島大学。
- 広島大学消費者生活協同組合フェニックス編集委員会(1992)：『フェニックス－写真が語る広島大学－』広島大学消費者生活協同組合。
- 広島大学二十五年史編集委員会(1977a)：『広島大学二十五年史 包括校史』広島大学。
- 広島大学二十五年史編集委員会(1977b)：『広島大学二十五年史 部局史』広島大学。
- 広島大学文書館(2015)：『広島大学の歴史』広島大学文書館。
(2020年 8月31日受付)
(2020年 12月16日受理)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46

石碑写真①



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



71



72



73



74



75



76



77



78



79



80



81



82



83



84



85



86



87



88



89

石碑写真②



90



91



92



93



94



95



96



97



98



99

100



101



102



103



104



105



106



107



108



109



110



111



112



113



114



115



116



117



118



119



120



121



122



123



124



125



126



127



128



129



130



131



132



133



134

石碑写真③



135



136



137



138



139



140



141



142



143



144



145



146



147

石碑写真④

9

明治三十六年九月広島師範学校卒業生及在学生千三百人相謀為吉村教諭開在職二十年祝賀會呈文具六件曰机曰書架曰硯曰筆筒曰墨架曰水滴是也且獻其肖像於學校頌其公德傳之於後世德久知事臨場陳詞曰吉村教諭奉職本校諄諄教而不倦精勤二十年終始如一曰受業者皆感激其功德洵可謂教員之好模範也嗚呼盛哉余時在北海道遙寄祝詩曰三世箕裘真可傳諄諄終始二十年何言得吾兄德溫知新啓後賢教諭之祖秋陽先生東本邦陽明學派之巨擘也陽明以知行合一為聖門唯一教義先生之學先求之於心以切於身其諄前而言諄行皆約之於用心之地矯弊歸正之功千古昭昭豈可沒乎其父斐山先生嘗曰良知是天地正氣雖孔孟不得私之況程朱陸王乎亦能紹家學以至教諭者名彰世美又古処安政元年二月二十日生于安芸広島幼受庭訓卅童能代父授章句於門人云長入藩學修道館研鑽經史百家造詣尤深廢藩置縣後宮頒布字制採用泰西文物於是君卒先入県立師範学校修所謂普通學以供採長補短之用八年三月卒業受小学校教員免許狀膺普通教育之任或就公職或起私學成績頗著十六年九月擢君為師範学校教師尋為助教諭終進教諭或兼舍監充舍務長教諭訓練極其精其妙矣二十六年五月文部大臣不要試驗持授師範学校教員免許狀誰不承認得其人者乎余嘗奉職広島師範学校前後十年日夕連案同從事斯道得君之補佐頗多而又能識其平生之一斑矣君資性謹嚴寡默是祖訓所謂聖人每不喜人多言而教戒切至者非耶君既奉祖訓兼通內外日進之學術先求之於心切之於身以身垂範於弟子故立教壇諄諄教人而不倦坐學舍暗暗示人而不劣一旦嘗大事則敢侃侃言之是所謂寬而不嚴而不猛者非耶是以弟子敬慕悅服常稱君以聖人不敢名是亦可以推其學德一端也四十一年三月文部大臣以多年從事教育勤勞不勳特賞與金百圓誰不稱選獎得其人者乎是年秋君不幸得疾而未遽擲教鞭十二月十五日及病革泉特增俸且以勉勵職務特賞與金百五十圓實為異數先是受賞不知其幾十回也是日遂不起弟子聞其訃皆如喪父母往年余之去広島島赴鳥取也君次余留別韻曰合離聚散縱從天只願交情依旧全芸海因山路非遠休言會見在何年今也再會不可復得嗚呼哀哉君配湯川氏貞淑能治內政生二男五女皆俊秀能守庭訓嗣子標年少氣銳現任陸軍步兵中尉叙從七位敷五等為將來有為之將校君家三世文勲顯著由來文武一其軌豈可無奏武功者乎四女各受高等教育嫁名士其他一男一女尚幼修學他日所造詣可以推知也今茲旧知弟子二十人相謀欲建碑以傳不朽遙寄書請余銘余素不文而君已許余以交情依旧余豈可以不文辭之乎為略叙其行狀系以銘銘曰

孔孟程朱將陸王 何私乾坤正真真 秋陽斐山至白齋 際會國家文教振
採長補短格物理 溫故知新叙彝倫 誦前言矣求於心 鑑往行兮切於身
以身垂範三十載 伝心成業二千人 師已施德遠而大 弟亦感恩深且淳
誰言師道今非古 來觀広陵虎山垠 小照揭堂神如在 豐碑摩天赫千春

明治四十三年十月 栃木県師範学校校長正六位勲六等安達常正
広島県師範学校校長從六位根岸福彌題 広島市 中津恒助刻

70

乾環先生 胸像再建について

乾環（いぬいたまき）一八七三—一九四六）先生は、明治四十四年広島高等師範学校教授として第五高等学校からご来任になり、昭和四年広島文理科大学創立時の植物学教室の主任教授を務められ、植物生理生態学を講じられたほか、生徒監、務務課長にも就かれ、生徒、学生の薫陶に当たられました。

研究面での特筆すべき功績は琉球泡盛園の研究で、その発見・命名者として知られています。ご退官の翌年昭和十二年春、先生の功績・仁徳を後に伝えるために先生を敬慕する知友門下により胸像が広島市東千田町の理学部植物園内に建立されました。誠に遺憾なことこの胸像は戦時中の金属回収のため銘板と共に撤去されました。

しかし、広島大学の東広島新キャンパスへの統合移転が進む中、平成三年の理学部移転に伴い、その台座部分が植物園の一部の植栽樹木とともに東広島キャンパスの植物実験圃場に移設されました。統合移転完了後二十年目の節目、かつ理学部がその流れを汲む広島高等師範学校の創立百周年にあたり、理学部生物系教員を核とする有志一同による乾環先生胸像再建事業が発起され、学内外から寄せられた百四十七名四団体からの拠金により、このたび胸像が再建されました。胸像の作者は日本彫刻会会員田畑功氏です。

平成二十四年十月三十日 乾環先生胸像再建事業会

17

広島高等師範学校初代校長廊堂北條時敏先生金澤産也家大業歴任山口金澤両高等学校東北大学学習院各長宮中顧問官勅選貴族院議員昭和四年四月廿七日歿年七十二先生剛毅果斷克己浮囂遂業學悟神理恪勤奉公寡言敏行温而萬寬而怡善誘竭才薰化成風千古遠愛難諱原像大戦中献國家昭和三十三年七月重鑿之昭和十二年二月 昭和卅二年七月 学園 学徒一同創建 復元會一同再建

碑文①

79

賀茂学園都市開発整備事業竣工記念

地殻・シルリアの海

賀茂学園都市開発整備事業は、地域振興整備公団が昭和50年12月に広島県・東広島市の要請を受け、新しい学園都市づくりを目指して着手した事業であり広島市内に分散していた広島大学キャンパスを、ここ東広島市西条へ統合移転するための大学用地造成事業と、学園都市にふさわしい住環境を備えた東広島ニュータウンの開発という2つの事業から成っている。

着手以来、20箇年を要した事業も、平成7年3月に竣工を迎え、また大学移転事業も、今ここに完了を迎えることとなった。これらの事業の完了を記念して、モニュメント「地殻・シルリアの海」を建立する。

平成7年11月

地域振興整備公団

シルリアとは地球上に我々の祖先が誕生した時期の事である。地球に誕生し寄生を始めた生命は、あくなき進化を繰り返し、そして現在に至っている。

ここにきて我々人類は文明という名の下で、壮大な過去の時間と生命のドラマを忘れてしまったかのようである。

私は、地球の表皮（地殻）に記録された膨大な記憶を頼りに、生命の原形生きる事の原点を探る作業を続けている。私のふるさと広島の大學生諸君が自らの心の奥深くに堆積している筈の生命の記憶を、これからの世界を担う者の原点として、掘り起こしてくれることを期待している。

岡本敦生

85

先生は1950年広島大学にご着任後、程なく米国ライス大学に二年間留学されました。ご帰国当時、新制広島大学はその黎明期にあり、先生は特に熱力学・蒸留の分野で意欲的に研究・教育に精励されと共に大学の発展を願い1959年、四十才の若さで化学工学科の設立に中心的な役割を果たされました。

その後生じた大学院工学研究科博士課程設置・キャンパス移転等の激動期には、第十六代、第十七代（1977年～81年）工学部長、続いて第六代（1981年～85年）大学長の要請にあつて、難波な諸問題に精力的に取り組み、その解決と進展に多大の貢献をされました。

学外においては、大学設置審議会委員、日本学術会議（第五部）会員、広島通産局化学保安指導委員会委員長、倉敷市コンビナート防災審議会副会長、中国・四国工業教育協会設立世話人等数多くの要職を引き受けられ、中央、地方を問わず学術、産業、技術の振興に尽力されました。

さらに米国留学で培われた体験により、早くから技術および学術の国際交流の発展に情熱を注がれ、アジア太平洋化学工業連合財務委員長、アジア学生文化協会理事等を進んで引き受けられて卓越した指導力を発揮され、諸外国に対し開かれた大学として躍進する広島大学の基礎を築かれました。

右の書には、世界中から多くの方が本学を訪れ、化学を学びそれに克って世の中で役立つ人になってほしいという先生の願いが込められています。

一九八六年三月

頼眞正弘先生退官記念事業会 建立

92

先生は明治二十八年廣島縣芦品郡府中町に生れ都帝國大學卒業後、大正九年廣島高等工業学校に奉職、昭和二十年廣島工業専門学校長、同二十四年引續き初代工學部長に補せられ、同三十三年三月停年退職に至るまでその職に留められた。その間三十八年、幾多の人材を世に送られると共に、發明協會その他の學協會にも関与せられ、我が國産業界に貢献せられること多大なるものがあり、同三十一年中國文化賞を受けるに至った。工專校長御就任當時は原子爆彈の被災後とて校舎は倒壊して使用に堪えず、一時、呉市廣町に移轉、廣島復歸も危ぶまれた中を、敢然として現地に再建を決意せられ、爾來幾多の困難を排し、寢食を忘れて御努力、ついに昭和二十二年復興の大業を完遂され、本學部の基を築かれた。先生、人と為り人に接するに寛容、己を持すること謹嚴、常に己を無にして事に當られた。以つて一舌の師表を仰がれる所以である。先生の御人徳を稱え、かつは復興に當つての一方ならぬ御努力産業界への御貢献を顕彰する為めにここに門弟知友相集まつて先生の壽像を建て、その徳を後世に語り傳えようとするものである。

昭和三十三年十一月 中江先生退官記念事業會

碑文②